SEPTEMBER 2019

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.27

ドキュメンテーション

春の見学会：三渓園にて

長期休暇の過ごし方

「よし、北海道に行こう！」

学生の皆さんは長期休暇をどんな風にお過ごしでしょうか。多くの大学には長期休暇が 2 つあります。「8 月から 9 月にかけて」と「2 月から 3 月にかけて」ですね。

私が過ごした学部 2 年生の時の長期休暇を振り返ってみました。「今、実現は難しいなぁ」と感じる時間を過ごしたことを思い出したので、そのことを書いてみたいと思います。私の所属していた大学は、夏休みの他に、更に秋休みがありました。その秋休みを利用して、1988(昭和 63) 年 9 月から 10 月にかけて約一ヶ月間、北海道に滞在していました。

その一ヶ月間は本当に自由でした。旅の目的地も帰る日も全く決めずに、ただただ、オートバイで走っていました。携帯電話なんて無い頃で、頼りになるのは、旅先で知り合った人から教えてもらえる安宿や美しい景勝地、美味しい食事の情報と、一冊の地図、そして、YAMAHA のオートバイ TZR250R でした。スロットルを回せば、そいつは私をどこにでも連れて行ってくれました。往路も復路も、高速道路やフェリー、飛行機も使わず、ひたすら、一般道を走り続けました。青森 (大間) と北海道 (函館) の間は、さすがにフェリーで渡りましたが。北海道上陸までも十二分に「旅」でした。国道 4 号線を夜通し走って、朝、青森県に入りました。

北海道のある山間部の町がライダーに無料でロッジを貸し出しているという話を聞きつけて、もちろん向かいました。町役場で鍵を借りてロッジへ向かい、オートバイを止めて、ロッジに入りました。運転で疲れた体を休めるべく、直ぐに寝たのですが夜中に目が覚めました。寒いのです。秋の北海道を舐めてはいけなかったのです。

新月の夜、森の中をオートバイで走っていました。自分以外に動くものはなく、深い闇に吸い込まれていく前照灯がありましたが、そのうち、前に進んでいるのか、後ろに進んでいるのか、段々、分からなくなって来ました。結局、「見えないこと（見渡せないこと）」に不安を覚えましたので、何を思ったのか、オートバイを路肩に止めて、すぐさま、前照灯を消しました。今日が新月であることを思い出したのでした。驚きました。目の前が、パーッと明るく、見渡せるようになったのです。ただ、色はありませんでした。白？黒？濃紺？漆黒？いや「透明」でした。今まで、こんなに透明な風景を見たことはありませんでした。

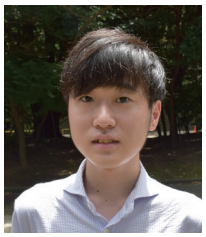
月並みな言い方になりますが、大学生として得られる長期休暇は、卒業後、手に入れることは、ほぼ無理です。学生の皆さんは是非、この長期休暇でなら出来ることにチャレンジしてみてください。きっと自分の価値観が揺さ振られますよ。

ドキュメンテーション学科　元木 章博

新入生の声

充実した大学生活

1年
光田 裕貴



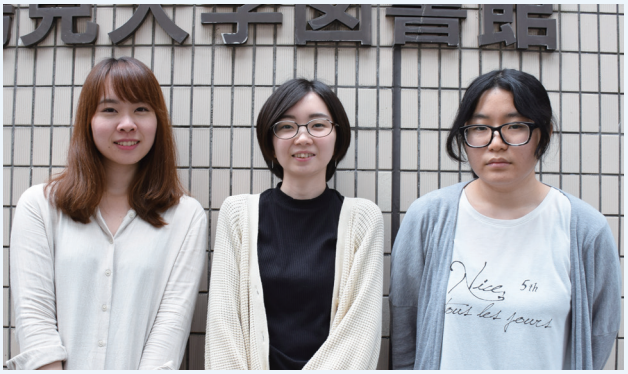
気の合う友達や先輩、個性的な先生に出会い、充実した日々を送ることができ幸せを感じています。手話を交えて授業をする先生や笑い方が特徴的な先生、自分の好きな書物を熱弁する先生など素敵な教員が多く、興味深い授業ばかりです。書物に関する授業で、貴重な古典籍を手に取って学ぶことができ感銘を受けました。そのような体験ができるのはこの学科ならではです。ほぼ毎週出される課題に四苦八苦しながらも、友達や先輩とランチをしたり、他愛もない会話をしたりと、楽しみを見出しながら過ごしています。また私は蔵書整理のアルバイトをしているため、授業での経験を活かし、日々パソコンのスキルアップに励んでいます。

司書として働けるよう

1年
崎濱 瞳子

私は図書館司書を目指して４月に鶴見大学に入学しました。新しい環境になり誰も知り合いがいなかったので最初は不安でいっぱいでしたが、今では友達もでき充実した大学生活を送っています。勉強は高校生の時よりも専門的な科目が増えて難しくなりましたが、その一方で新しいことを学べる楽しさを日々感じています。まだまだ慣れないこともたくさんありますが、これからの大学生活をより良いものにするためにも自分の行動にしっかり責任を持ち、新しいことにたくさん挑戦していきたいです。そして、４年後には大学で学んだことを生かして図書館司書として働けるように一生懸命勉強に励んでいきたいです。

＋大学院生



左から　鈴木さん・井上さん・庵原さん

大学院で司書を目指す

博士課程前期１年
井上 美紀

大学院で障害者サービスの研究を進めながら、司書を目指しています。大学４年次には正規採用を目指していくつかの公務員試験を受験しましたが、一次試験は受かるものの二次試験で悔しい結果に。非正規職員として司書になることも考えましたが、「もう少し頑張れば可能性はあるかも？」「もっと専門的な勉強ができたら楽しいな」という思いが捨てきれず、大学院への進学を決めました。授業に研究、アルバイトと、大学院生は想像以上に多忙です。加えて試験勉強なんて挫けそうですが、諦めずに頑張ります。学習アドバイザーとしても活動しているので、司書試験にご興味のある方はお立ち寄りください。

大学院に進学して

博士課程前期１年
庵原 奈津希

大学院に進学した理由は、鶴見大学で四年間学んできたことのさらに深い領域に関することを学びたいと思ったからです。大学院では、学部生の時とは異なり自分で知識を増やし学んでいくことが必要となってきます。そのため、自分で動かなければ欲しい情報を得ることができません。大学院での生活は学部生の時以上に多忙ですが、得るものが多くあり、日々の出来事が自身の成長につながっていると感じています。また、大学院では自分の専門外の分野についても学ぶことができるため、自分の知らない分野に関する知識を会得できるということも魅力の一つだと思います。

もう一度学びたくなって

博士課程前期１年
鈴木 郁未

私は 2018 年の３月に卒業し、一度社会人となりました。しかし、もう一度深く学びたいという気持ちから一般入試を受験し、今年度の４月から大学院に入学しました。現在は連歌学書・連歌論書の伝本書目の作成を目指し、研究に取り組んでいます。連歌学書・連歌論書の伝本を全国的に調査し、その所在や書誌情報をまとめ、今後の連歌研究に役立つものにしたいと思っています。大学院の授業は学部生の頃に比べると少ないですが、授業はどれも少人数なので、直接先生方にご指導いただけ、内容の深い授業を受けることができます。今後も毎回の授業の時間を大切にし、学びを深めていきたいと思います。

見学会

ドキュメンテーション学科では、新入生に地元横浜を知ってもらおうという目的でバス見学会を実施しています。今春は横浜美術館で常設展を鑑賞した後、新緑の美しい三渓園を散策しました。

横浜美術館

1年
村上 英紀

自分にとって「来る」作品を見つけられたのがうれしかった。様々な感情、感性を持つ「人」だからこそ、一人一人違った作品ができるのかと思った。その時の心と身、数ミリ違うだけでまったく別の物が出来上がる。これは人でなければ作れないし、その作品は二度と作れない。己にひびく、ひびかないもその時の心持ち一つで変わるもの。同じ作品が二度と作れないのと同じく、出会いもまた、一度しかないのだと思った。

1年
柳川 琴音

「死と転生」というシリーズの作品が印象的でした。複雑なテーマを円や波線という不安定でしかし安定した線で描き上げられており、紙の中に落とし込まれている感じが強く、抽象的なものを可視化することができる感性に感動しました。作品によっては自分で描けると思えるようなものでもレシピ通りに料理を作ったからって同じ味にはならないように、人の思いが込められたものはしっかりと他者の心を動かすのだと気づかされました。

1年
岩田 卓

リチャード・ハミルトンの「釈放」の男は、顔を手で覆い隠している。恐らく釈放されるであろう人物のスーツの派手さに、また罪を犯すことを予兆しているのかと気になった。同じく「ブラッククリスマスを夢見て」を見るかぎりは、この画家は皮肉めいた表現が好きなのかと予想し、時を忘れた（あるいは、どきどきした）。パブロ・ピカソの「ヴィーナスとキューピッド」は、ある種親子の関係と表しているのではと考えさせられた。

三渓園

1年
佐藤 丹音

旧矢箆原家住宅でガイドさんに説明して頂きました。板間は農民、畳の部屋は武士の部屋と区切られていました。また、お手洗いは武士専用の上雪隠がある一方で、農民などは屋外で済ませるなどしていたこともわかりました。江戸時代は上下関係がとてもはっきりしていたことを再確認できました。さらに、この住居はずっと山の上にあったそうなのですが、そのことがわかる細かな工夫を住居の各所に感じることができ、とても面白かったです。

1年
細海 愛恵

三渓園に入館した時にまず感じたことが「横浜にこんな自然がきれいなところがあるのか」ということです。バスの移動中に中華街やみなとみらいなど観光スポットが見えたので、そことのギャップに驚きました。三渓園はとても広く、すべて見学することはできなかったのですが、重要文化財の建物はいくつか見ることができました。また、結婚式も行われていたので、羨ましい気持ちとおめでたい気持ちがあってほっこりとした見学でした。

1年
三浦 那知

兼六園など、いくつかの園と名前の付く場所によったりしたことがあったが、その場所によって、少しずつ違う顔があるなと思った。こういった場所に来ると、清々しく、涼しく落ち着ける。建物も文化財で守る為という訳で、中まで入ったり、見たりすることができないが、上から眺めることができたらまた少し違う見方が出来そうだと思った。新婚さんの写真を撮るのにも適している場所が多かったので、少し自分の将来についても考えられた。

国際インターンシップ

ドキュメンテーション学科では、海外の大学（姉妹校）からの学生を受け入れる国際インターンシップを行っています。今年は 6 月 28 日から 7 月 8 日まで、台湾の世新大学と中興大学、中国の北京大学から計 14 名のインターン生が参加しました。期間中、ドキュメンテーション学科の学生と一緒に授業を受けたり、鶴見周辺の施設に見学に行くなどの活動をしました．休日や授業後には，鶴見大学の学生と遊びに行ったり食事に行ったりもしています。

北京大学 ２年　高梓菡 Gao Zihan

言葉が違うことによる壁がありましたが、鶴見大学の学生達はとても熱心にコミュニケーションをしようとしていました。ゲストハウスから大学に向かう道で出会うと、親切に道案内をしてくれました。大学はお寺の境内と一体になっており、毎朝キャンパスに来ると一種荘厳な気持ちになります。ここで研究する先生方や学生もまた，私に優しく親切にしてくれました．どうもありがとうございました。皆さんを通して日本文化の深いところに触れられたと思います。

中興大学 修士２年 錢天禧 Chian Tianshi

鶴見大の学生と授業を受けました。そこで、鶴見の学生が、私たちを、他の学生に紹介できるようにする、ということに取り組みました。言葉の問題がありましたが、私たちはそれをやり遂げて、共通の理解も進みましたし。良い会話もできました。とても楽しい授業でした。インターンシップはとても楽しいものでした．多くを学び，友人が作れ、図書館を見学し、おいしいものを食べました。鶴見で会ったのは、みな友好的ですてきな人でした。今度台湾に来てくれたら、ぜひ案内したいと思います。

＊研修生の感想は、英語原文からの抄訳

ドキュメンテーション学科の学生の感想

- 「言葉も文化も違う同年代の人間とコミュニケーションをとるということは普段の生活ではなかなか体験することがないので、授業でそれができたというのは貴重な体験だった」
- 「こちらが相手の言葉をそれほど理解することができなくとも、ジェスチャーなどの他の要素を合わせれば意思疎通が出来る事が分かった」
- 「言葉は通じなくてもノリでコミュニケーションは取れるとわかったのは大きいと思う。一緒のグループになった留学生も鶴見の学生もとても盛り上がって楽しかった」
- 「他の国の生徒の話を聞くと自分たちと違った学び方をしていてさらに専門的に行っていると思いました」
- 「最初は、言語の違いがあり、上手くコミュニケーションが取れなかったが、スライドを作成するときに中国語を根気よく教えてくれて、言語が分からなくてもコミュニケーションをとる方法はあるということが分かりました」

資格取得に向けて

教育実習を終えて　神奈川県立霧が丘高等学校

4年
志田 祥子

私は教員免許取得のため、母校である神奈川県立霧が丘高等学校で3週間の教育実習を行いました。50分、40分と決められた時間の中で、それぞれのクラスが持つ雰囲気に対応した授業進行や、注意の指導等、実際の現場で教壇に立たせていただいた事で直面した難しさや厳しさは多くありました。生徒と親交を深めていくと共に、そういった反省点を指導教諭にご指導いただきながら実習を進めていき、最終週の研究授業ではより改善された授業を行う事ができました。先生方だけでなく、生徒からも「楽しかった」「興味が持てた」と感想をもらい、教える事の大切さ、喜びを学ばせていただけたと思います。実習を受け入れて下さった母校、そしてご指導いただいた先生方、そして何より授業に積極的に取り組んでくれた生徒に、深く感謝申し上げます。

博物館実習　神奈川県立神奈川近代文学館

4年
田代 桃子

私は7月16日から21日まで神奈川県立神奈川近代文学館で博物館実習のお世話になりました。実習中は、展示や資料保存などに関する経験をさせていただきました。特に私が勉強になったのは、雑誌の修理や図書整備です。発行された当時のまま保存されている古い雑誌は傷みが激しく、取り扱いの際には緊張しました。ここにしかない一点ものの資料が多く、触れさせていただいたことはとても良い勉強となりました。また、7月20日から始まった「西巻茅子展」の展示会場の設営もさせていただきました。重い展示ケースを運んだり、設置場所の確認などで自然とほかの実習生の方々と仲良くなることができました。大学内だけでは学ぶことのできない、より実務的な経験をさせていただいたことは、とても大きな経験になりました。

参禅会に参加して

1年
小幡 美栞

初めて座禅を体験しました。四十分間の座禅はあっという間で、雨の音をただ聞いているだけで不思議と心が落ち着いてきて、坐ることに集中することができました。しかし、慣れていないからか足が痺れてしまい、しばらく動くことができませんでした。座禅の他にも修行僧の方のお話を伺いました。与謝野晶子さんが何回も大雄宝殿を訪れたが、綺麗すぎて足を踏み入れることができず、「胸なりてわれ踏みがたし　氷よりすめる大雄宝殿の床」という和歌を詠んだというお話や、修行僧の方は百間廊下を毎日掃除されているというお話が印象に残っています。また、精進料理をいただくときの作法として、食べる順番が決まっていること、お漬物は茶碗を洗うために残しておくこと、食べた後の食器の積み重ね方にも決まりがあることなどを知ることができました。普段の生活では経験できない修行僧の方の生活を体験することで、鶴見大学の建学の理念にもある「禅の心」について、参禅会を通して学ぶことができました。

卒業生から

「ここに来たらほっとする」そんな図書館に

NPO 法人 市民の図書館・公民館　宇佐見 千映子
こがねい図書館 貫井北分室 司書　（2018 年 3 月卒）

公立図書館の委託を受けた NPO 法人の図書館職員として働いています。カウンター業務以外に、YA 担当、児童担当、館内装飾を担当しています。YA 担当はヤングアダルト世代のサポーターと 1 年間様々なイベントを企画していっしょに活動したり、3 ヶ月に 1 度広報誌を発行し、テーマ展示を行ったりしています。テーマ展示を行う際に、本を集めたり全体の装飾を考えたりするのですが、「ドキュメント処理各論 II」の授業で実際に展示を行った経験が役立っていると感じます。

児童担当としては、夏休みの向け謎解きイベント「ぬくきたたんていだん」の装飾と、図書館や本に関係する問題づくりを担当しました。また、私は卒業論文で「図書館における児童向け掲示物の効果」について研究していたので、館内装飾担当として携われることがとても幸せです。「ここに来たらほっとする、安心できる」と利用者に思っていただけるような居心地の良い図書館にしていきたいです。

ご報告

村田学術振興財団 海外派遣援助採択

博士課程前期 2 年
星野 ゆう子

2019 年 6 月、村田学術振興財団が実施している海外派遣援助に採択されました。これは、2019 年 8 月にギリシャで開催される IFLA WLIC2019 でのポスター発表の渡航費および滞在費について、支援していただくものです。今回の国際会議では、昨年の「ホーナー日本交流基金」によるアメリカ・アリゾナ州での図書館訪問の経験を元に、日本とアリゾナの図書館で実施されている障害者サービスについて、比較研究を行なった結果を、ポスターで発表する予定です。自分の研究成果を発表することはもちろんですが、世界中の図書館情報学研究者と交流したいと思います。初めて参加する学会ですが、実りあるものにしたいです。

Book Review　中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社・2019

もともと多民族・文化の土地であった日本の歴史のなか、多くの民族は文字文化に染まり、ひとつの日本民族・文化へとまとまってきた。そのような統一国家建設の歴史において、文字文化に染まらなかったアイヌ文化は必ずしも良き位置づけのものとは永らくされてこなかった。

ところが漫画・アニメ「ゴールデンカムイ」はそんなアイヌ文化を一瞬にして身近で普遍的価値を持った存在へと変えてしまった。この「ゴールデンカムイ」でアイヌ語の監修をしている中川裕先生が、ゴールデンカムイを通してアイヌ文化を解説しているのが本書である。漫画の世界観を深く理解するための解説に加え、漫画を題材にしてアイヌ文化の世界も自然に学べるような内容になっている。本文中には漫画の画面がふんだんに引用され、漫画のファンであれば関連グッズとしても楽しめる。もちろん、漫画を読んでなくとも普通に絵付き新書 (ライト新書 ?) としても楽しめる。本書は、作品「ゴールデンカムイ」の価値を高めるだけでなく、漫画の地位も高めている。（大矢一志）

No.17

【国立核実験博物館〔ラスベガス、アメリカ〕】

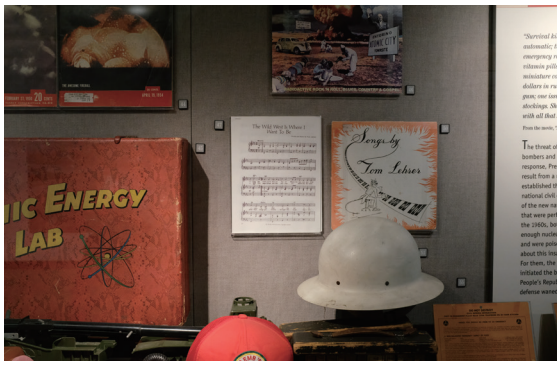
The National Atomic Testing Museum, Las Vegas, USA

ラスベガスという砂漠の中に作られたコンクリート砂漠の街には、酒とタバコと太陽がいっぱいで、通りを歩く人々はここでは全てをさらけ出し、欲望のまま生活しているように見える。そんなギャンブルを促すために作られた、理性を押さえ欲望を開放する街に、図書館や書店など心落ち着ける場所はない。そんな観光地から徒歩でも行ける距離に、スミソニアン博物館群のひとつでもある国立核実験博物館がある。

展示内容は、核実験で使われてた機材や、当時のアメリカで最先端の科学技術の粋であった核爆弾が、どのよう文化として扱われていたのか解るようになっている。核エネルギーは、核爆弾の開発が先行したけれども、その後は原子力発電所の開発へとつながり、無限のエネルギーが得られるクリーンで安価な、人類の未来を切り開く技術と思われてきた。いわば人類を救う科学技術の粋として扱われていた。この博物館では、そのような明るい未来を目指し懸命に開発を進める研究者や、それを心躍りながら見守る市民の記録が展示されている。日本では見ることの難しい、ある文化の一面を見ることができて面白い。

国立核実験博物館

核開発はその後、米ソ冷戦時代の核戦争の恐怖や、スリーマイル、チェルノブイリ、福島第一原子力発電所の原発事故の経験から、核分裂と比べれば短命で放射線に弱い生物である人類にとって核技術は扱いが難しいことが理解され、少なくとも理性ある人にとり積極的な活用は考えられなくなっている。この博物館では、そのような核技術の負の面に関する展示はない。しかし、それはそれで良いと思う。少なくとも、ある時期、核技術は人類の未来を照らしていたことは確かであり、それを思い起こさせる良い展示になっている。この博物館は、非営利団体によって保存・運営されていたが、現在は国立博物館となり将来への保存の道が確立された。ラスベガスという欲望の街にひっそりと、過去の欲望を思い出させ、ふと我に返る機会を与えてくれる貴重な博物館である。（大矢一志）



核実験を扱う文化

アクセス：ラスベガスの繁華街ストリップ (という通り) の中心 , フラミンゴ通りとの交差点から東に 2km 程進むと、右手に国立核実験博物館が見えてくる。ストリップのバス停からルート 202 を使ってすぐ。
開館時間：月曜 - 土曜：10:00-17:00、日曜：12:00-17:00
アドレス：755 E Flamingo Rd, Las Vegas, NV, 89119, USA
https://nationalatomictestingmuseum.org/

学科・学会活動報告　2019 年 4 月～2019 年 7 月

■４月３日　新入生交流会
オリエンテーションと新入生交流会を開催。交流会では、各自豊富を語ったり、進みたいコース、入部予定のクラブやサークル、趣味等について話たりしました。

■４月４日　ノート PC 貸与
授業等で使うノート PC を貸与しました。全員無事初期設定を終えることができました。

■４月５日　平成 31 年度入学式
ドキュメンテーション学科 16 期生と大学院ドキュメンテーション専攻の３名が入学しました。式後、学科・専攻別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました

■４月 21 日　見学会：横浜美術館・三渓園
新入生同士交流を深めつつ、地元神奈川県を知ってもらう、見直してもらうために、横浜美術館と三渓園へ見学に行きました。

■５月９日～６月 20 日　特別実習Ⅰ
今年度のテーマは昨年度に引き続き「古書店目録のデジタル化」です。古書店目録に掲載される貴重な古典籍の情報を、正しく読み取り、整理して、デジタル化します。秋の図書館総合展での成果発表を目指します。

■５月 13 日・27 日・７月 15 日　パソコン補習
１年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで惜しくも補習対象となった学生たちに、タイピングのコツを伝えました。

■６月 27 日　大学院説明会
大学院文学研究科ドキュメンテーション専攻について、学部生に向けて、文学研究科長と角田専攻主任、入試課から大学院の説明を実施しました。

■６月 28 日～７月８日　国際インターンシップ
台湾・世新大学、中興大学と中国・北京大学から 14 名の学部生・大学院生がインターンシップ生として来日しました。さまざまな授業を受け、東京と神奈川の施設（図書館や研究施設等）を見学しました。

■７月６日　教育懇談会
保護者会の後、学科別に保護者の皆様と教員との懇談会を開きました。教員の自己紹介、教務関係の注意事項や就職状況等の説明をした後、個別面談を行いました。保護者と教員とが直接話をする貴重な機会で、相互の信頼関係を築けることができたらと考えています。

■７月 13 日　ドキュメンテーション学会総会と交流会
平成 30 年度の事業・会計報告、監査結果報告、平成 31 年度事業・予算計画が報告されました。その後、大学開館食堂にて交流会を実施しました。会に先立って、３年生を対象に、次年度に配属される研究室の説明会も開かれました。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ（http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/）でご覧になれます。

□「ドキュメンテーション」第２７号をお届けします。
□ １年生対象の春の見学会では、横浜美術館と三渓園に行きました。新入生の皆さん、交流を深めることはできたでしょうか。
□ 国際インターンシップに、今年度新たに台湾の中興大学が加わりました。

ドキュメンテーション　第２７号
令和元（2019）年９月 29 日（日）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒 230-8501　横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
☎ 045(581)1001　発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/